修徳
題字：伊藤博文

発行所
修徳自治連合会
広報委員会
修徳社会福祉協議会
発行責任者　篠原　實
編集責任者　小西宏之
印刷所　(有)亦美プリント

震度六の地震発生

防災訓練

8月にトルコ北西部大地震、9月には日本に近い台湾大地震である。世界の活断層が活動期に入ったのか。大震災の死亡原因の大部分が古い家屋での圧死という。修徳学区は古い家屋が多く、被害集中の想定が現実になり得る。

想定 修徳学区に被害が集中 震源地は京都府南部

高度な模擬訓練を採用

平成十一年度修徳学区自主防災会の総合防災訓練は『九月十九日午前九時三十分京都府南部に震度六の地震が発生し、修徳学区に被害が集中している』という想定で始まる。本年度も成徳中学校グランドに災害対策本部を設置する。本部前で、篠原会長が平井副会長に、平井副会長が各ブロック長への伝達を指示している。各ブロック長から所属町内会防災部長への指示は地震の想定内容以外に『各町内会は被害状況を把握し、情報班が災害本部へ緊急報告を行なう。個人の非常持ち出しもの

の持ち出し訓練や火災の初期消火、家屋の倒壊に伴う救出などの初動措置訓練を実施した後、一時避難場所に避難する。』である。各ブロック長の集計する情報は、各町の被害状況に応じて、重点的に救援を行なうために欠かせないものである。

はじめて煙中訓練

各町での初動措置訓練が終わると、学区民は町旗を先頭にぞくぞくと避難してくる。今年は入口に煙中訓練の〝煙テント〟が設置してある。姿勢を低くして、出口を探す。

救出訓練

通行人「大変や！　家が、家が壊れてるやんか。誰かおるのか？　おったら返事してくれ。」

通行人「みんな、助けてくれぇ！　ひとが家の下敷きになっとるぞ！」

――大声を聞きつけた救出班（第三、第四ブロックから選出）がリーダーを先頭に駆けつける。

救出班リーダー「ひとや、確かにひとがいるぞ！　よし、生きてるぞ。」

「救出班！　器材準備はじめ！」

救出班「よし」「ジャッキ用意！」「バール用意！」「内部確認！」

――倒壊家屋の隙間にバールを差し込み、ジャッキをセットして隙間をひろげる。

救出班、通行人「もうすぐ助かるぞ！」「元気だせよ！」

――下敷きになっていたひとを救出。

救出訓練

消火訓練

救出班「火事や！　班長、奥のほうから煙が……炎もあがってます。」

――火災を発見した救出班員が消火班リーダーに火災発見を報告する。

――消火班（第一、第二ブロック担当）がリーダーを先頭に、現場へ駆けつける。

消火班リーダー「倒壊家屋内に火災発生！　消火バケツによる消火は

大江町はジェット風船をとばして意識高揚

ご来賓に感謝

ご来賓の岡田下京区副区長、藤木下京区企画総務課長、西脇下京消防団長、森澤下京消防署長。また、訓練指導の下京消防署秋本消防司令、喜山消防士長以下署員十二名がそれぞれ来場された。厚くお礼申しあげる。

避難参加者増える

消防分団十三名、自治連合会十六名、女性会の給食配布訓練二十七名、各町の避難参加人員は二十二名増加二百九十一名。総参加者数は三百七十名を数えた。

給食訓練に参加して

女性会

災害時に学区民の命を支えるという、修徳自主防災訓練のなかの大切な一部、給食配布訓練として、女性会はおにぎりの配給訓練をいたしました。

朝八時に仮設会議室に入ると、会長はじめ役員の方がたはもう机を出して、道具は並べられ、部屋全体や机などを薬用アルコールで消毒されていました。いままで経験した大地震では、避難所などが、水不足で不潔になり、感染症などが心配されていました。きっと、そういうことも頭に入れてやっていらっしゃると感心しました。

炊飯器からは湯気が上がり、嵐の前の静けさといった感じでした。

『これから始めます』の合図とともに、ここで炊き上がったご飯と、家から持ち込まれたご飯合わせて一斗四升はつぎつぎとおにぎりに変わり、その数はなんと四百個です。私たちのブロックはご飯一升ずつを二十八個に等分するひと、梅を中に入れてにぎるひと、海苔を巻いて仕上げるひとと分担しました。昨年の経験も生かされて十個ずつのお弁当を紙袋へと入れました。この作業のお陰で、各町へ手渡すときも混乱もなくスムーズにいきました。私は、初めて防災訓練のお手伝いをさせていただいたので、いろいろな状況を予想しながら準備する訓練の大切さを学ばせていただきました。

（女性会　夏原）

避難所の清潔保持を視野に

じめ！」

消火班全員「よし！」

――消火班バケツで消火開始、しばらくして鎮火する。

この通行人は弁財天町森田さん、救出リーダーは御供石町北川さん、消火班リーダーは坂東屋町山上さんで、迫真の演技にみんなの注目が集まった。（シナリオ　平井）

応急処置と防災器材

第一、第二ブロックは消防救急隊の指導で応急処置訓練である。三角巾を使って傷口の血を止める。骨折の腕を吊る。第三ブロック、第四ブロックは防災器材の取り扱いを経験する。

修徳小跡地発掘調査終わる

元修徳小跡地の埋蔵文化財発掘調査が終了し、九月二十五日最終見学会があった。目新しいものは古墳時代前期の地層から北東より

戦国時代の人骨出土

南西方向になめに横切り、幅は成徳中学校あたりまでという川跡であった。とくに今回珍しく、戦国時代の三十才位の女性と思われる頭蓋骨が出土した。『時代祭報告書』に掲載された、復元された須恵器や、土師器、いまの知事クラスの深緑色の石製帯銙など、古代の暮らしや源氏物語の世界の雅やかさがここにあったと思うと感動した。

（大堀町　松本泰彦）

消防団入団の『思い』

吉水俊成　玉虫照代

秋の深まりを感じる今、五月一日付けで消防団に入団したときから数えて、半年が過ぎようとしています。

入団早々に査閲訓練があるなど、不慣れなことの連続で右往左往の状態でした。最近、制服・作業服姿もどうにか〝様〟になってきたようです。

私の入団への思いは、阪神大震災へ遡ります。

当時のニュースで、地域のひとびとの連携プレーにより、命を救われた方がたくさんいらっしゃると、報道されました。

『自分たちの住む地域は自分たちで守りたい。』

この思いが、多くのひとびとを救ったのです。

私の生まれ育ったこの修徳学区にも、このような『思い』の活動をされている会があります。修徳自治連合会です。

私も微力ながら何かに挑戦してみたい。その『思い』が、私を入団させました。

十一月の〝秋の火災予防運動〟週間には、消防士長と二人で、ひとり住まいの高齢者宅の訪問を予定しています。

初めての女性団員をどう活かすか。団長もきっと、〝考え中〟(!?)です。

今後とも、学区の皆様の格別のご指導をお願い申しあげます。

消防団員任命式

災害防止どの主つの自

きびきびした消防分団の放水訓練が終わると、おにぎり、ビール、ジュース、おつまみで疲れを癒す。

お買い上げラッキー抽選券六百四十枚の抽選を楽しむ。

消防分団　防災訓練で放水訓練の勇姿

玉虫さん入団の修徳

【震災メモ】

阪神大震災で八万二千棟を超す古い木造家屋が全壊。死者の大部分がその倒壊による圧死。

心も体もコミュニケーション

修徳学区民運動会

走った　投げ入れた　運んだ

最近、地域では、コミュニティの「ふれあい」の観点から、誰もが参加できる体育やスポーツの種目を模索しようという動きが主流になってきている。学区民運動会は、ふれあいの場というより、ふれあい〝コミュニケーション〟そのものである。今年も多くの学区民が参加して、走り、運び、投げ入れ、体を動かし、ふれあいを実現した。

よし！えらく調子がよい
ひょっとすると優勝できる！

前夜の雷雨は、主催者だけでなく、多くの学区民を心配させた。役員一同も、ちょっとおおげさに言ってみれば『不退転』の決意で臨み、霧雨の残るなか、開催に踏み切った。学区民の皆様の思いも天に通じたのか、少し肌寒くはあったが午後には晴れ間も見え、校庭はソフトな状態でも、かえってほこりもたたないよい条件で競技を進行することができた。

今年も昨年にひきつづき、成徳中学校の校庭をお借りしての開催で、校長先生、教頭先生が会場設営にたいへんなご助力をいただいた。心からお礼申しあげる。

また、本年は個人競走の参加者が予想を上回り四十名も増えた。五位、六位の商品がうれしい誤算で、他の賞品に変更するハプニングもあった。

今年の記念すべき学区民大運動会も、学区民をはじめ広告主の方がたのご協力と、準備委員や役員の思いが通じ、成功裡に終わった。

（佐倉）

ご来賓紹介

岡本下京区長以下五名、小牧、木下下京体振連合会副会長、西脇同顧問、米澤成徳中校長、吉田教頭、市原成徳連合会長、木ノ山洛央小校長、梅戸教頭、鈴鹿楊梅幼稚園長

女性会　美味しそうな匂い！

大繁盛の模擬店

前日はとてもよいお天気でしたが、夜中から、雷は鳴るは大雨は降るはで、このところ当たっていない気象情報の『明日は午後から晴れる』という予想に、祈るようにすがっていました。女性会は食べ物を主とした模擬店を開きますので、中止などというと大変です。さぞかし、中村会長の心配はひとしおであったと お察しします。でも、お陰様で、無事運動会が始められる天候に恵まれました。

模擬店の机の上には、「赤飯」「お寿司」「おはぎ」「みたらし」「ジュース」と販やかに並べられました。女性会の町委員の方がたが食券をたくさん売っていただいたお陰です。

運動会が始まると同時に、「みたらしだんご」を焼く美味しそうな匂いに、ほほえましい雰囲気が周辺を包み、楽しい模擬店の出発でした。当日の食券の売れ行きも上上でした。とくに「みたらし」は、つきたてのおだんごなので、とても好評で人の列ができるほどでした。

いつもは会う機会のない人びととの懐かしい出会い、語り合い、どんなにか心がなごみ、ふれあいの場ができ、有意義な女性会模擬店の一日でした。

（女性会　一井）

深草　中野之　二競技で勝つ

今年も、優勢を誇る大江町を、どれだけの競技で各町が阻止していけるかに興味が集まった。

結果は別表のように、午後一番の玉入れ競技に深草町が快勝した。さらに、壮年風船競走で、中野之町が勝ち、二つの競技に他町が食い込んだ。大江町は残りの、女子スプーンリレー、玉送り競走、置替競走、男子スプーンリレーに勝ち、やはり強さを誇った。

個人ラッキー賞

大江深草月見で五割近い

個人ラッキー賞の当選者は合計五十個のうち、大江の九、深草の七、月見の七、幸運の三町で二十三と、四十六パーセントを占めた。後はぐっと下がって四が御供石、三が亀屋、吉水俊成、大堀、後は二か一であった。

この提灯にだけ風が吹くわけないね

このたま落ち着いてくれないなぁ!?

この風船割れない？

表彰　受賞者のお知らせ

九月五日
京都市自治百周年事業推進協力感謝状授与
修徳学区自主防災会

九月十二日
優良補導委員金賞
小林　叡功（深　草）
北川　親枝（御供石）
優良補導委員銀賞
森　芳子（御供石）
青木　富子（元両替）
黒田　寛（藪　下）
優良補導委員銅賞
中村　裕（高　砂）
酒井　悦子（御供石）
桜田　鈴美（材　木）

九月二十一日
全国交通安全運動
近畿管区警察局長
近畿交通栄誉賞
松本　泰彦（大　堀）

十月三日
下京区長体振功績表彰
下京区体振連合会会長賞
西山　正夫（中野之）
高橋　俊次（大　堀）

十月十五日
京都市自治百周年事業推進協力感謝状授与
平井　常夫（高　砂）

十月十五日
京都市自治百周年事業
市長感謝状授与
修徳学区市政協力委員連絡協議会

十月二十三日
京都市自治記念
十年以上在籍貢献
篠原　實（月　見）
浅野　三朗（材　木）
中村　弘一（亀　屋）

十一月二日
平成十一年度保健協議会
役員勤続二十五年
功労者表彰
川上　和子（藪　下）

おめでとうございます

米寿のお祝い

平成十一年度に八十八才をお迎えになった皆様おめでとうございます。修徳学区では、六名の方がたに、敬老の日を前に市民生局より敬老記念品の贈呈がありました。

皆様方には、いろいろな出来事が走馬灯のように思い出されることと存じます。なかでも、戦時中や戦後のご心労はいかばかりであったかと、お察し申しあげます。

米寿をお迎えになった皆様が、二十一世紀をも迎えようとしているこの平和な現在を、交通戦争だけには充分にご留意のうえ、健康で楽しく幸せ多い生活を末末までお過ごしくださいますようお祈り申しあげております。

（民生総務　堀　順象）

対象者の方がた

（敬称略）
尾崎　貞（月　見）
国吉　閑（元両替）
小林フミ（月　見）
瀬野平夫（藪　下）
中村千代（弁財天）
花井鯛蔵（亀　屋）

女性会　いつでもどこでも体操を

健康体操教室

七月二十七日（火）午後一時三十分より、元修徳小仮設会議室で、健康体操教室を開催し、四十名の参加をいただきました。

平井副会長の司会、中村会長のごあいさつで始まりました。つぎに、下京保健所保健婦藤田美幸先生から骨粗鬆症予防についてお話をいただきました。

高齢者だけの問題ではなく、骨粗鬆症にならないためには、若い頃から骨の貯金を減らさないことが大切です。まず、運動のできる二十才代～三十才代は筋肉を使う、レーニング、四十才代以上は体操と散歩、朝二十分くらい八千歩から一万歩を歩くとよい。食事に気をつける。日本食の量を増やす。ビタミンB、ビタミンD、小魚や野菜、牛乳、チーズ、海藻類、大根おろしなどがよい。

つぎは、〝いつでもどこでも誰とでもできるやさしい体操〟を教えていただきました。まず首、肩、背筋、腰、足と順に、皆様一生懸命に、満足感に満ちたお顔でした。そんななか、藤田先生の大きなお声「右足を高く上げて、つぎは左足を高く上げて、両手を大きく振って歩く練習をしましょう。」「皆様、足がよく上がりお若いですね。」のお言葉に、会場いっぱい大きな明るい笑い声と、ふと気持ちがほぐれ、楽しい会話でわきあいあいと、とてもよいムードで、充実したひとときを過ごさせていただきました。心も体も健康になりました。

柿本副会長のごあいさつで閉会しました。

（女性会　川上）

平成11年 修徳学区民運動会 団体競技成績

	1	2	3	4
玉入れ競技	深　草	大　江	藪　下	吉水俊成
女子スプーンリレー	大　江	深　草	玉　屋	材　木
壮年風船競走	中野之	御供石	大　江	小田原
玉送り競走	大　江	藪　下	月　見	深　草
置替競走	大　江	材　木	小田原	弁財天
男子スプーンリレー	大　江	御供石	玉　屋	深　草

弱者の目線で交通をみる

交対協の交通安全教室

9・15

総務庁の統計によると、自動車は一九九六年で、すでに日本だけで八千五百万台を超えている。とくに、道を『生活の庭』感覚で捉えている高齢者や六才以下のこどもたちにとっては、危険にさらされているというだけでなく、地域のなかでひととのコミュニケーションができない環境がつくりだされてきている。まちづくりの時代にこそ、弱者の目線で交通や車を見直してみる必要がある。

九月十五日（敬老の日）に交通対策協議会、修徳社会福祉協議会の主催、修和会の協力で『修徳シルバー（高齢者）交通安全教室』が元修徳小仮会議室で開催された。講師として五条警察署婦人交通巡視員の潮田秀子指導主任さんと中島可奈子さんをお迎えした。高齢者の交通に対する関心の強さを示すように、五十八人の出席をみた。

数井副会長の司会でこの教室は始まった。

福井会長　『高齢者モデル地区』になった昨年は、幸い学区内の事故がなかった。最近、不法駐車が少なくなった分、車のスピードが上がる。注意してほしい。

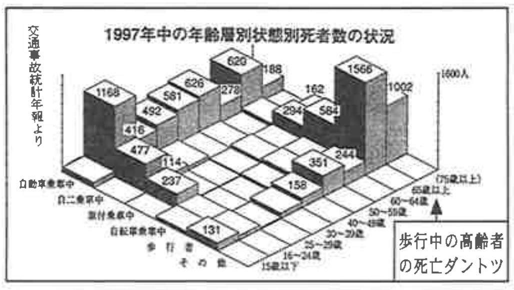
連合会篠原会長　五条通は分離帯の改造ができて、右折左折線が完成し、事故も少なくなった。

交通安全教室が始まった。みんなで〝ケンちゃん〟と呼ぶと、中島さんが腹話術の人形〝ケンちゃん〟（六才!）を抱いて登場する。

ケンちゃん　五条通は『横断禁止区域』です。横断歩道以外は横断してはいけませんよ。

潮田さんは、三つの事例をあげる。

横断しないでとケンちゃん



交差点や横断歩道の手前は、死角になる

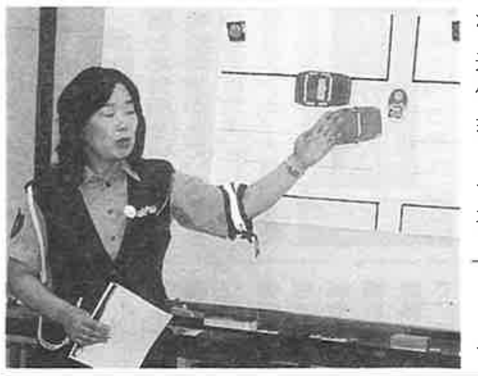
（一）七十五才の男性高齢者が五条堀川の歩道橋の五メーター手前を横断した。脇見運転の市バスのドライバーが急ブレーキをかけた。幸い軽いケガですんだ。

高齢者たちにとって道は、「生活の庭」

（二）生祥児童公園の北側の路側帯を、富小路へ向かっていた男性高齢者が、向かい側の店の看板を見て突然道路を渡り始めた。そこに女性の乗った自転車が当たった。思いつくまま動く高齢者には、とくに注意が要る。

前の車が止まれば〝何かある〟の意識

（三）事故は、生活道路と四車線の大通りの交差するところで起こった。信号も横断歩道も大通りの真ん中の分離帯もない。七十二才の女性高齢者はいつもここを横断していた。この日も風呂帰りに渡り始めた。十一月の午後七時頃はもう暗い。先頭の車は気配を感じたのか、速度を落として走っていた。ところがそのうしろから自家用車を運転していた五十二才の男性会社員は、早く家に帰りたいと思っていたので、イライラしだしていた。前の車が止まったので、追い越し車線へ出て加速し、前の車に止まってもらって進み出した女性高齢者を死亡させてしまった。



運転注意メモ
時速四〇キロの衝撃さえ、二階の屋根から落ちたのと同じ!

交対協告知板

□九月二十一日
平成十一年交通安全府民のつどい（ぱ・る・るプラザ京都）
平成十年中の交通死者が平成九年より下回った市区町村のなかでも下京区が十一人から三人に著しく減少した。岡本区長が代表して功績表彰を受けた。

□九月二十六日
高齢者ドライバー対象の交通安全講習会（成徳中）
府警のシュミレーター（模擬運転装置）を積んだ交通安全教育車で、各自の運転の再確認をした。修徳から六名の参加があった。

□十月一日
下京区交通対策推進連絡協議会の行事
烏丸五条上るで、シートベルト着用推進街頭啓発を行なった。着用率は八十五パーセントであった。（福井）

修和会　秋の気配なく中国路

湯原温泉に憩う

修和会の旅行を何年ぶりかで復活、九月二十七、二十八日湯原温泉一泊に行った。

長い間ぐずついていた空も当日はこれ以上はない快晴。ひた走る名神、中国高速、どこまでも青い空。御津町で昼食の後マスカット狩へ。

秋の味覚に堪能しながら無数にぶら下る房を換算したりしてバスは北上。沿道の家々の瓦が黒々と艶のある光沢にさすが備前焼の地元！と感心しながら中国山地の懐深く神庭の滝へ分け入る車窓にまだ秋の気配はない。神庭の滝では猿の糞に気をつけながら滝の直下まで。18号台風の置土産か水量豊かに落下するしぶきを浴びながら渓谷に心も浴ける楽しさ。

秋拒む滝の水量すさまじく

バスは折返して湯原へ到着。直ちにダム下の露天風呂へ行く人、館内の大浴場で疲れをほぐす人。宴会で和やかな湯の宿の雰囲気を楽しんで就寝。

翌朝は一面の霧。目の下の橋も向いの稜線も南画そのまま幽幻の美。バスで走りはじめると徐々に霧は晴れてきてはるか彼方に伯耆富士も輝いている。倉吉では土蔵の町並をそぞろ歩き、もう京都にはないムードがこの小京都には残っていた。

穏やかな日本海を見渡しながら次の目的地、砂丘に到着。昼食のあとリフトで砂丘まで足をのばす。

秋はまだ砂丘に汗の落ちるまま

ひと汗かいたあと記念写真。

鳥取で梨狩をして三七三号線を佐用へ。途中武蔵の大原町では「新免」の看板も見受けて納得。

帰路も佐用から中国高速。予定より四十分ほど早く八条口に帰着。それぞれの無事を喜び合って解散。とても美しい茜空を見上げながら。

（弁財天町　都倉）

受刑者の社会復帰に理解を　—6・12—

更生保護婦人会活動記

その日は梅雨空に似合う紫陽花の花を、バスのなかから眺めながらの京都刑務所訪問でした。

まず、収容者が作業場で作業中なので、部屋を廊下から見せていただきました。とても整理整頓が正しくて、その分、厳しさを物語っていました。

そして、職員のなかには、時には、夜も寝ずに実践指導に当たっておられる方もいらっしゃると聞いて、胸がじんときました。

それから、所長様から制度についてお話がありました。

釈放後役に立つようにと、学科教育のなかに「通信」「簿記」「電気工事」「書道」「調理師」など、いろいろの通信教育がカリキュラムに組み込まれていて、検定試験も受けられるようになっているそうです。この間ブルドーザーの試験に、六カ月で免許を取った青年が二～三名いたのにはびっくりされ、高校教育をもっと体を張って見直さねばと、教育者のなかで真剣に討議されているとのことでした。

所長様は最後に、やがて社会復帰する受刑者たちのなかで、〝今度こそは真面目に〟と決意しているひとたちのために、社会の皆様のご理解をいただきたいとおっしゃっていました。

このような見学をさせていただいた後は、その方がたのご家族の気持ちを考えるのか、胸重く痛みます。

（中村順惠）

総合福祉施設への要望

布屋町　中谷　隆亮

【1】施設の工事にあたっては、設置主体の京都市の責任で、周辺の町内会などへの了解をえられるよう努力を要望します。

【2】この施設は周辺部でなく市の中心部につくられますので、家族・友人が気楽に訪問できるよう団らんの場所を用意していただきたい。また、児童館など併設されるので、利用する高齢者と子どもたちが交流できるよう配慮をお願いします。

【3】施設の運営について三点を要望します。

① 周辺の高齢者で、ひとり暮らし、あるいは夫婦のみの世帯が、配食サービスを利用したり、希望すれば食堂も利用できるよう、厨房や職員の配置をしていただきたい。

② 日帰り介護施設等は、地元の高齢者が利用することが多いと思われますので、希望すればボランティアでお手伝いできるよう運営もしていただきたい。

③ 社会福祉協議会や修和会で、特別養護老人ホームなど高齢者の福祉施設見学や施設の現状を聞く機会を用意していただけると、理解がすすむものと思います。

いよいよ来年四月、介護保険が実施されます。より充実したものにするため、この施設の内容・運営がよりよいものになるよう希望します。

明るい社会づくりPR　7・1

更生保護の日第四十九回「社会を明るくする運動街頭啓発月間」の初日、市役所からパレードを行ない、四条河原町では京都府知事、法務省関係機関の方がたを迎え、修徳から篠原会長はじめ五名が参加して、総勢百余名で団扇、リボンエード、PRリーフレットの啓発用品を通行者に手渡し、犯罪のない明るい社会づくりの理解と協力を求めました。

二十一世紀は子育て支援を　9・27

更婦連盟主催平成十一年度ブロック別研究協議会は五地区から七十名が参加し、伏見稲荷参集殿で開催されました。午前中は京都市文化市民局堀野訓男氏の講演「子供の人権」を拝聴しました。午後の第一、第二の分散会では、「二十一世紀に向けた更生保護婦人会活動を考える」（副題〝子育て支援地域活動〟）のテーマで熱心に研究討議を行ない、全体会では京都保護観察所長の総評をいただきました。

この研究討議が、今後の更婦活動の糧となり、実を結ぶことに望みを託して、会場をあとにしました。

愛のチャリティコンサート　10・7

更婦連盟主催、第八回愛のチャリティコンサートが、テルサホールで開催され、会場は満員の盛況で、修徳は六名が参加しました。今回は伊吹吾郎氏、康太郎氏父子によるトークショーで、テレビの裏話や伊吹親子の知られざる〝ひととなり〟など興味深く聴きました。

さらに、親子によるギター演奏あり、歌あり、ドラマ水戸黄門の印籠をもった角さんの〝極め台詞〟の披露もあり、リッチなコンサートでした。

収益金は連盟より矯正、保護、更保事業施設へ贈られます。

（柿本富美恵）